

法務省“社会を明るくする運動”中央推進委員会主催

第６９回“社会を明るくする運動”作文コンテスト

**社会を明るくする運動**

**ＳＮＳの可能性　つながっているということ**

京都・坂本　采佳

普段は、あまり考えたことがありませんでしたが「社会を明るくする運動」のことを知り青少年、つまり私の世代の犯罪や非行にかかわってしまう人はどんな人か考えてみました。全ての人という訳ではありませんが、学校に来ることが少ない人は、学校に来ていない分、犯罪や非行に接する機会や時間が多いのではないかと考えました。そんな人が少しでも学校へ来る機会を増やすことが出来れば犯罪に巻き込まれる人が少なくなるのではないかと考えました。ここからは、どうすればこういう人が学校に来られるようになるのか。自分の体験談を用いて話していきたいと思います。

私のある友人もあまり学校へ来ることが出来ない人たちの一人でした。

私とその友人の初めての会話は、その友人からのＳＮＳ上のダイレクトメッセージでした。その当時、私とその友人に共通点はなく同じ学年だっただけで一度も同じクラスになったことはありません。私はその友人からのメッセージに疑問を持ちながらもメッセージを開きました。そこには私の好きなアーティストさんの名前があり実は、その友人もそのアーティストさんの大ファンで、私のＳＮＳの投稿を見て「話したい！」と思いメッセージを送ってきたのです。私はその友人とＳＮＳ上で話をする内に意気投合し、アーティストさんの話以外にも色々な話をするようになりました。その日の授業中の出来事や、友人との会話、時には私の愚痴話にも付き合ってくれました。

　その日もいつものように話をしていた時、私は何も考えずに「アーティストさんのカード、同じもの二枚持ってるから、一枚あげるよ。」と書きました。そして、送ってからとても後悔しました。私にとって、学校で友達と会うことは当たり前のことですが、その友人にとっては、学校へ来ることは当たり前のことではありません。すぐに謝らなければと思い文字を打ち始めた時、友人から返ってきたメッセージを見て私は驚きました。「じゃあ、明日は学校へ行こうかな。」

確かに、そう書かれていました。びっくりしましたが、とてもうれしかったです。そして実際、その友人は学校に来ました。そうしようと働きかけていた訳では全然ありませんでしたが、友人が一度でも学校へ来るきっかけに自分自身がなれたことはとても嬉しかったです。もしかしたら、友人も無意識に学校に行くきっかけになることをＳＮＳで探していたのかも知れません。

　最近、未成年者が犯罪に関わったり、被害にあったりする、ＳＮＳのデメリットが多々挙げられています。しかし、私とその友人が仲良くなるきっかけを作れたのはＳＮＳのおかげです。私は学校へ来られなくなった人を助けられる可能性がＳＮＳにはあると考えました。私たち三年生はあと少しで義務教育の過程を終了し、中学校を卒業します。学校で毎日顔をあわすことがなくなってしまっても、ＳＮＳではつながっていることができる。もちろん、ＳＮＳの使い方も注意しなければなりませんが、つながっていると感じることができれば､「自分は大丈夫だ。」と思える時が多くなり、犯罪・非行と関わりたい気持ちや機会が減るのではないでしょうか。

一人一人が自分の足で社会へと歩むことが、その人の未来を明るくし、

一人一人の未来を明るくすることが、「社会を明るくする」ことにつながるのではないかと思います。